

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

TEL: 03-3519-5181 FAX: 03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp

URL: http://www.elv.or.jp/

## 自動車工業団体賀詞交歓会に出席

ELV機構が自工会から招待を受けて初めて出席



1月6日(火)、東京都港区にて、「平成27年自動車工業団体新春賀詞交歓会」が開催されました。これは、日本自動車工業会・日本自動車部品工業会・日本自動車車体工業会・日本自動車機械器具工業会の4団体が主催しているもので、ELV機構は日本自動車工業会からの招待により、初めて同会に出席することとなりました。

当日は、経済産業省・国土交通省などの関係省庁や衆議院・参議院の議員ら約1,500名が出席し、ELV機構からは河村代表理事、清水理事、奥野事務局長の3名が出席しました。新年のご挨拶では、日本自動車工業会の池史彦会長をはじめ、宮沢洋一経済産業大臣、太田昭宏国土交通大臣、菅義偉官房長官が壇上に立たれました。この中で池会長は、「日本経済が成長を続けていくために、これから自動車業界が牽引役として、経済・社会に対して果たすべき役割は非常に大きいものと思っています」と述べました。

また、河村代表理事は、池会長と直接お会いして、「自動車業界は日本の主力産業であり、自動車のリサイクルも非常に重要なものである。お互いに協力していきましょう」といったお話をされ、「業界として、使用済自動車の適正処理をしっかりとやっていく」とお伝えしたそうです。

## 目次

巻頭言	..... 1
<b>トピックス</b>	
自動車団体賀詞交歓会	..... 1
産構審・中環審合同会議	..... 2
共同出荷事業	..... 2
青森県組合新年会	..... 3
九州ブロック会議	..... 3
自動車リサイクル士 関連ニュース	..... 3
特別寄稿コラム	..... 4-5
鉄スクラップ最新情報	..... 6
行事予定・お知らせ	..... 7
編集後記	..... 7

## 巻頭言

今年こそは希望の年となるよう願って新年を迎えたのは私だけではないと思います。日本ELVリサイクル機構においては自動車工業団体新春賀詞交歓会に初めて招待を受け、河村代表らが参加してきました。このことは私達業界にとって一筋の希望の光になるのではないかと思います。その交歓会の中で、エアバッグと通常呼んでいるものをメーカーの方々は「フーセン」と呼んでいるそうです。どの業界でも隠語や業界独特の呼名がありますが、フーセンとは意外でした。私達業界でもユーモアある名称など発案しながら、もっともっと多くのユーザーに親しまれればと思います。

(広報部会 副部会長 田村 幸男)

# 産構審・中環審 第36回 合同会議が開催

平成27年1月14日に産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルワーキンググループ・中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会による第36回合同会議が開催されました。今回のヒアリング対象は地方公共団体及び指定法人であり、具体的には以下のとおりです。

## 1. 秋田県(全国自治会)

### テーマ「自動車リサイクル制度に係る施行状況と課題」

施行状況として許可・登録の状況と立入検査の状況の報告があり、課題として以下のような事柄が挙げられました。

- (1) 解体業者の能力
  - ① 標準作業書に対する認識の欠如
  - ② 標準作業書によらない作業への対応
  - ③ 処理能力と保管基準の明確化
- (2) 使用済自動車の判別
- (3) 不適正処理対策
  - ① 名義貸し禁止規定適用の判断
  - ② 不適正処理時の事業の停止
  - ③ 廃棄物該当性の輸出時の確認
- (4) ヤード業者対策
  - ① 外国籍経営者への対応
  - ② 関係機関との連携

## 2. 川崎市(全国市長会)

### テーマ「自動車リサイクル法の見直しの検討に対する考え方について」

- (1) 自動車の不法投棄の現状と各支援制度について
- (2) 自動車リサイクル法に基づく事業者の登録・許可業務等に関する現状と意見

## 3. 埼玉県滑川市(全国町村会)

### テーマ「自動車リサイクル制度に係る対応状況」

## 4. 公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

- (1) 運営効率化の取り組み
- (2) 運営のチェック体制
- (3) 資金管理料金及び情報管理料金の収支状況
- (4) 特定再資源化預託金等の発生状況

報告後の質疑応答では、「自り法の事業許可基準が全国一律ではないのでは？」という意見や標準作業書に対する質問があり、河村代表は自動車リサイクル士取得により一定の教育が可能であると発言されました。今後の会議の流れとしては、これまでの4回の合同会議で出た意見を交えて各論点を展開していくとのことです。

# 貴金属類の共同出荷事業、回収完了

平成26年12月、「平成26年度貴金属類の共同出荷事業」における回収作業が完了しました。実績としては、227社もの会員事業所にご参加いただき、すべての品目において目標値を上回る回収重量を達成することができました。(回収重量の数値は下表参照)

本事業へご参加くださった会員の皆様、ご協力くださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。貴金属類の回収事業は来年度も行う予定ですので、資源循環委員会にて本事業の総括を行い、しっかりと反省点をふまえて詳細を検討していきます。また、本事業の結果に関する詳細は、現在資料にまとめている段階であり、資料が完成し次第、会員の皆様へ展開する予定です。

### ■回収重量

(参加事業所数:227社)

品目	目標値	実績値
1. コンピューター基板	9,500 kg	14,684 kg
アルミなし	—	12,757 kg
アルミあり	—	1,927 kg
2. エアバッグカプラー	870 kg	1,722 kg
3. センサー類	790 kg	4,083 kg
総計	11,160 kg	20,489 kg

## 青森県組合新年会を開催



青森県自動車リサイクル協同組合はさる1月10日青森市内にて講演会・新年懇親会を開催しました。今回は講師二名による講演会で、始めに株式会社南部美人の五代目蔵元で代表取締役社長久慈浩介氏が「会社としての挑戦」と題して、自社で醸造した商品の海外での普及活動内容を資料を交えて細かく説明しました。次に福島県自動車リサイクル協同組合代表理事田村幸男氏が「震災から今日まで」と題して、震災時の様子とその後苦労したことなど裏話を交えて自分たちにとって何が大切なのかを話しました。その後の懇親会ではニューヨーク以外では飲めない南部美人純米醸造酒をいただきながら懇親を深めました。

## 九州ブロック会議を開催



1月17日土曜日、福岡県にて、第5回九州ブロック会議と新年会を開催しました。

本部での会議の報告として、第2回ブロック長会議と共同出荷事業について説明しました。また、第2回九州ブロック全体報告会を7月18日土曜日熊本県で開催するにあたって、役割分担も決めました。会議の後半には、熊本大学法学部の外川健一教授にもご参加いただき、業界動向について情報交換を行いました。新年会では、活発なコミュニケーションが取れて良かったです。

次回の九州ブロック会議は、4月18日土曜日、今回同様、福岡県にて開催予定です。

## 自動車リサイクル士関連ニュース

### 1. 第6回 自動車リサイクル士制度関係者検討会

- 開催日  
平成26年12月19日(金)
- 開催場所  
東京都港区  
ELV機構本部 会議室
- 参加者  
経済産業省、環境省、日本自動車工業会、自動車リサイクル促進センター、自動車再資源化協力機構、ELV機構役員、リサイクル技術部会
- 議題  
1. 講習会開催実績について  
2. 平成27年度講習会について …… など

### 2. 中国地区講習会



[写真左：中国・四国ブロック長 古谷 一夫 様]

- 開催日  
平成27年1月20日(火)～21日(水)
- 開催場所  
東広島商工会議所4階／広島県東広島市
- 実績概要  
受講者 20名：うち非会員7名(35%)  
行政参加者 5名  
※ 合格者は2月10日(火)ホームページにて発表。

## 自動車リサイクル率の考え方 EUと日本

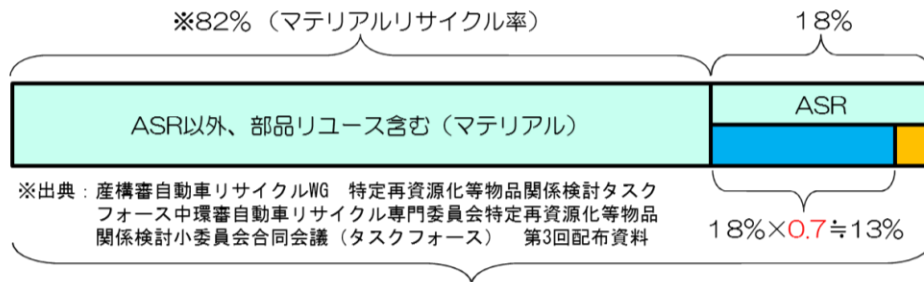


熊本大学 法学部 教授 外川 健一 様よりご寄稿いただきました。

現在、自動車リサイクル法の5年ごとの見直しに関する第2回目の産業構造審議会・中央環境審議会の合同会議が行われているのは、皆さんご存知のことと思う。この見直しのキックオフ会議は2014年8月21日に開催されたが、そこで経産・環境両省は法施行時からの自動車リサイクルシステムは「概ね順調」との見解を崩していない。確かに最大課題のASRの再資源化率の数字は、直近の2013年度で、トヨタ、ホンダ、ダイハツ等を中心とするTHチームが96.1%、日産、三菱自動車、マツダ、富士重工業、スズキ等を中心とするARTが97.1%を達成している。そしてこれを根拠に、政府や自動車メーカ等は、日本の自動車リサイクル率は99%を達成しているとしている。

図1

2003年タスク  
フォースでの推定値



2013年99%  
リサイクル達成の根拠

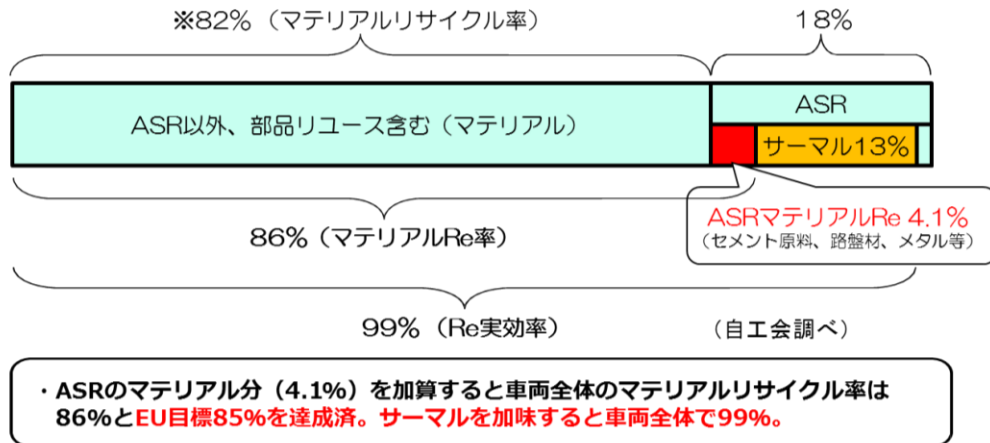


表1

大分類	中分類	1973年	77年	80年	83年	86年	89年	92年	97年	2001年
鉄鋼計		81.1	80.9	78	76	74.4	73.7	72.3	70.8	73
非鉄金属計		5	4.7	5.6	5.6	6.1	7.4	8	9.6	7.8
金属計		86.1	85.6	83.6	81.6	80.5	81.1	80.3	80.4	80.8
	合成樹脂計	2.9	3.5	4.7	5.7	7.3	7.5	7.3	7.5	8.2
	その他非金属	11	10.9	11.7	12.7	12.2	11.4	12.4	12.1	11
非金属計		13.9	14.4	16.4	18.4	19.5	18.9	19.7	19.6	19.2
合計		100	100	100	100	100	100	100	100	100
原単位総重量の推移		100	106.5	106	103	107	115	137	141	162.6

(上) 図1 99%リサイクルの根拠  
[産構審・中環審 第34回合同会議自工会提供資料より作成]

(左) 表1 普通・小型乗用車における  
原材料構成比推(%)  
[出典:(社)日本自動車工業会資料]

(次ページへ続く→)

図1は2014年11月11日に開催された合同会議で自工会が提出した資料を、筆者が編集したものである。上の図は法施行前の2003年時の合同会議の下に創られたタスクフォースという会議で、ASRのリサイクル率を70%以上とすれば、95%というリサイクルが達成されるという考え方を示した図である。興味深いのは部品リユースを含むマテリアルリサイクルは、市場原理で約82%すでに行われているという2003年当時の見解である。

そこで表1や図1の上の図の考え方から、82%は市場でリサイクルされており、残りの18%がASRになるはずだから、その18%の7割、すなわち $18\% \times 0.7 = 13\%$ が再資源化施設で適正にリサイクルされれば、 $82\% + 13\% = 95\%$ のリサイクルが達成されたとみなすというのが2003年のタスクフォースで合意された政府の見解であった。

そして2013年度には、図1の下図に示したように、ASRのリサイクル率はマテリアル分が4.1%、サーマル分が、13%となっているから、99%のリサイクルは達成されているというのが、自工会の見解である。

ところでこの95%というリサイクル率の目標はEUの使用済自動車指令に影響を受け、通産省(当時)が設定した目標値である。では本家EUではどの程度のリサイクル率(EUではリカバリー率というので以下、そのように表記する)が達成されているのかを欧州委員会のウェブサイト調べてみた。すると2012年のドイツのリカバリー率は106.3%、スロヴェニアのそれは103%という奇妙な数字が掲載されていた。この点、今秋ドイツで調査をしたのだが、このような数字が出てくる理由は正直わからなかった。関係者に聞くと、EU各国では日本のような電子マニフェスト制度はもちろんなく、メカによる拡大生産者責任も実質無償引取のみで、現在の経済情勢ではそれは形骸化されているとのことであった。シュレッダーダストについても、各国ともかつての日本のように、自動車のみをシュレッダーにかけるようなシステムではないので、正確なASRの量を測定するのは難しいようである。結論から言えば、EU諸国ではELVのモニタリングが正確には行われてはいないようである。

2014年5月、ポーランドの自動車解体業の業界団体がELV機構を訪問し、ELV機構メンバーの解体工場を何軒か訪問・見学をした。私はその場にお邪魔してポーランドでのリカバリー率について訊ねてみた。驚くべきはポーランドでリカバリー率95%は解体業者の責務であり、自動車メカやシュレッダー業者は、この点に関して何の責任もないということであった。では、どのようにしてリカバリー率を測定するのかと尋ねたところ、はっきりとした回答を得ることはやはりできなかった。彼らは異口同音に「違法業者による解体が多いので困っている。」とコメントしていた。彼らの口ぶりからも、EU委員会のウェブサイトで公表されているポーランドの2012年のリカバリー率:92.8%も、どうも希望的観測による推定値であるようだ。

いずれにしろEU諸国ではリサイクル率、リカバリー率の定義は各国で違うようで、この数字をEU各国間で比較することは難しいとのことである。いわんや日本のそれと単純に比較できないということがよく分かっていただけだと思う。

## 著者紹介

外川 健一 (とがわ けんいち) / 熊本大学 法学部 教授

研究テーマ

- ① 廃棄物・リサイクルに関する経済地理学的研究
- ② 経済地理学とりわけ資源論に関する研究
- ③ 企業の環境対策、CSRに関する研究

1964年 北海道札幌市生まれ

1988年 九州大学薬学部薬学科卒業

九州大学助教授、公益財団法人自動車リサイクル促進センター評議員などを経て現職に至る



## ■ 1月第3週(19日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供/日刊市況通信社]



1月19日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2	気配
関東	北関東	26,000 ~ 27,000	様子見横ばい
	南関東	26,000 ~ 27,000	様子見横ばい
名古屋		25,000 ~ 26,000	値下がり
関西	大阪	25,000 ~ 26,000	弱含み様子見
	姫路	23,500 ~ 24,000	弱含み様子見

### 韓国向け輸出商談、双方の思惑に差 一部でH2成約FOB2万6千円

14日の関東鉄源および関西鉄連の共同入札(テnder)の落札結果が判明した後、日本商社・シッパー筋と韓国ミルとの間で鉄スクラップの新規輸出商談が進んでいる。ただ、双方の思惑に大きな開きがあり、特にH2の成約は今のところ一部にとどまっている。

貿易筋によると、韓国大手の現代製鉄は、輸入契約残を多く抱えていることや足元の手持ち在庫が多いことから、日本玉の高値成約には消極的だ。一部筋によると、先週半ばのH2の成約価格は1トあたりFOB26,000円どころ。足元の関東浜値より1,000円どころの安値となっている。それでも5,000ト程度を成約したもよう。

一方、日本商社・シッパー筋のH2の輸出オファー価格はFOB28,000円台にあり、現代製鉄の指値と比べて大幅な高値にある。このため、ポスコや世亜べが上級品種の鉄スクラップを成約しているものの、H2の成約は進んでいない。別の貿易筋によると、台湾の電炉メーカーが韓国よりも高値のCFR270ドル(H2)で買い姿勢を見せており、今後の商談への影響が注目される。

### 【関東地区】電炉値下げ散発も大勢様子見 浜値横ばいで相場を下支え

関東地区では、一部で値下げが散発しているものの、大勢は様子見の姿勢を崩していない。東京製鉄宇都宮は同社の他拠点で値下げしている中、昨年12月25日の値下げ以来、購入価格を据え置いたままで、他の電炉も大きな価格の改定は見られない。横ばいが続く背景としては、浜値が関東相場を下支えしている点が挙げられる。H2炉前実勢価格は26,000~27,000円中心。H2浜値は26,000~26,500円中心で横ばい推移。

### 【東海地区】市況は安値圏に向けた展開 先行きの需給も緩い見通し

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、1月第3週後半(15日~16日)にかけてトピー工業が500円刻みで2日連続して購入価格の抑制に動くなど、市況はさらに安値圏に向けた展開となっている。H2炉前実勢価格は25,000~25,500円中心、一部高値26,000円。同地区の電炉メーカーのスクラップ在庫は潤沢な状況で、その消費の減少から購入量も大幅に絞られると考えられる。このため、先行きの需給も緩い状況が続くと見られている。

### 【関西地区】メーカー需要減退で下げ圧力が高いままの状況続く

大阪地区では、正月休み明けに入荷の殺到したところも、1月中旬からは落ち着いた荷動きを指摘する声が聞かれる。しかしそれでも、在庫過多や生産低下の需要減によって多くのメーカーが使用量を確保できており、先行きへの警戒感は緩まる気配にない。H2炉前実勢価格は25,000~25,500円、一部高値26,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は23,500~24,000円。なお姫路地区ではメーカーによって入荷状況にバラつきがあるもよう。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、1月19日午前時点のもの)

# 行事予定

## ■ 2月の主な予定

### 2月3日(火)～4日(水)

- ・ 四国地区自動車リサイクル士制度  
認定講習会

### 2月17日(火)

- ・ 第11回 広報部会
- ・ 第37回 産構審・中環審合同会議

### 2月18日(水)

- ・ 第4回 事業検討委員会(環境省事業)
- ・ 第6回 資源循環委員会

### 2月24日(火)

- ・ 第3回 ブロック長会議



## お知らせ

### ■ 会員数(2015年1月時点)

総数 637社 / 会員 609社、賛助会員 28社

### ■ 自動車リサイクル士合格実績(2015年1月時点)

資格の種類	平成 25年度	平成 26年度
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	4名	35名
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破碎工程)	15名	56名
自動車リサイクル管理士	626名	188名

### 自動車リサイクル士制度認定講習会 認定証書発送時期のお知らせ

関東ブロック  
講習会の合格者 ..... 2015年1月発送済

中国地区・四国地区  
講習会の合格者 ..... 2015年2～3月発送予定

## 編集後記

2015年も慌ただしく一ヶ月が過ぎようとしています。さてこの1月は自動車リサイクル法が完全施行されてからちょうど10年目にあたります。あれから10年我が業界はどのような変化を見せたのでしょうか。▼このところ頻繁に開催されている産業構造審議会・中央環境審議会合同会議でも様々な角度から自動車リサイクル法を検証しております。広報部会でも聴講に出向き、できるだけ分かりやすい形で情報提供をしようと心がけています。▼本年は新たな企画として、各方面の有識者の方々にコラムやインタビューを賜り、俯瞰的に日本の自動車リサイクルを考えてみようといった試みを行います。▼第1回目の今日は、ご存じ熊本大学の外川健一教授のコラムをお届けします。今回は日本とEUの自動車リサイクル率の考え方といったテーマで、各国のリサイクル率の定義を考察されております。興味深い内容ですので是非ご覧下さい。第2回目は「持続可能な社会をつくる元気ネット」鬼沢良子事務局長のインタビューを予定しております。楽しみにお待ちしております。

(広報部会 部会長 永田 則男)